

はじめに

児童生徒を取り巻く環境は著しく変化し、新しい教育メディアが教育現場に急速に普及しています。GIGAスクール構想の実現に向けた1人1台タブレット端末の整備も、新型コロナウイルス感染症による臨時休校等への対策として一気に導入が進みました。

さて、児童生徒に1人1台タブレット端末が行き渡った今、情報活用能力の育成が今まで以上に重要な課題となっています。また、AIやIoTなども含めて社会の情報化への対応も考える必要性が生じています。さらに、文部科学省が提示している「StuDX Style」では、ICTを子供たちが「文房具」として、教師が「教具」として、学校教育活動の中で使いこなせるよう情報発信されています。学校現場への期待は、大きくなってきています。

そこで、視聴覚・情報教育委員会では、視聴覚教育、情報教育、放送教育を総合的に推進し、学習活動に教育メディアを効果的に活用することで、児童生徒の豊かな感性の育成や学習意欲の向上、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を目指しています。また、教科指導等におけるICT活用では、小中学校間の連携を重視するとともに、学校教育全体を通した系統的・体系的な実践研究を推進しています。

コロナ禍における研究活動は様々な制約が生じてきたために、学校教育の情報化やオンライン化を進めて対応を図っています。これまでように参集型の会議や研修が、感染対策のために困難な状況になってきました。今後は、オンライン型の会議や研修の充実を図っていくとともに、オンラインによる授業においてもICT機器を効果的に活用し、新たな「学び」やそれを実現していくための「学びの場」を形成していきたいと思えます。

令和3年度の委員会の歩みとして、本研究紀要をまとめました。愛媛県教育研究協議会の県下の各支部及び県全体としての活動報告、実践事例、実態調査などの情報を掲載しています。これらの情報を今後の研究実践に生かしていただきたいと思えます。様々な情報は、それぞれの先生方の必要に応じて活用の仕方が変わってくるものです。児童生徒の情報教育の育成という目標に向けて、そこを目指すための活用方法やアプローチは千差万別です。本研究紀要の情報をもとに、日々の教育活動に役立てていただければ幸いです。最後になりましたが、ご指導いただいた関係機関の皆様、原稿をお寄せいただいた先生方、編集にご尽力いただいた先生方に心よりお礼を申し上げます。